

1 目指す学校像

『知の日比谷』をスローガンに、文武両道の理念、良き伝統及び自主・自律の校風を継承・発展させ、生徒一人一人のもつ個性や能力の十分な伸長を図り、グローバル社会の中で21世紀を逞しく切り拓くリーダーを育てる。
 また、東京都教育委員会指定「進学指導重点校」として、意欲と活力に満ち、使命感をもった教職員の一致協力した学校運営に努め、都立高校を代表する骨太で重厚な進学校として教育活動の充実を図る。
 生徒は、学習・学校行事・部活動等に主体的・積極的に取り組む中で、集団への帰属意識や他を思いやる心をもち、互いに高め合う集団づくりを目指す。
 教職員も、学校経営計画のもとにベクトルを一致させ、生徒の学力向上・自律的な生活態度の育成・希望進路の実現に向け、専門職集団として協働する。

観点	2 中期的目標と方策	3 今年度の目標と方策 (1) 教育活動の目標と方策	(2) 重点目標と方策
学習指導	(1) 質の高い授業を創造することで、自ら学ぶ生徒を育て、学問の本質を探究できる姿勢を培う。 ア 生徒に考えさせる授業、考えたことを表現させる授業、他の考えに触れ、さらに思考を深める授業を展開する。(「知のネットワーク」場面の創造) イ そのなかで、集団で学ぶことの喜びや意義を見出し、主体的な学びへとつなげることのできる生徒を育てる。 ウ 特に理数教科においては、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)三期目の指定を受け、創造力をはぐくむ授業づくりに努める。 (2) 教科マネジメントを確立し、組織的に生徒の学力向上を図る。 ア 個々の教員の優れた取組を教科として共有し、3年間を見通した教科指導の在り方を一層発展させる。 イ 日常的な生徒の取組状況、定期考査・実力テスト・外部模試等の分析結果や生徒による授業評価結果から教科として必要な取組観点を明らかにし、授業、日常の補習、土曜講習、長期休業日中の講習等を教科として発展させる。 ウ その結果として、組織的に生徒の学力向上を成し遂げる。 (3) 平成32年度から実施される「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」及び次期学習指導要領に対応した教育課程を編成する。 ア 広い教養の土台の上に、大学での専門分野において大きく伸びることができるよう、さまざまな教科・科目を履修する教育課程を編成・実施する。 イ 全教育活動を通して、オリンピック・パラリンピックに関する教育を適切に実施する。 ウ SSH指定校として、新教科「理数探究」を視野に、理科と数学とが融合した探究活動を重視した学校設定科目を研究・開発する。	【目標】「質の高い授業の創造」と「教科マネジメント」の充実を図る。 【方策】 1 生徒・教員間及び生徒間のやりとりを通して考えさせ、表現させる授業を実践する。 2 集団で学び、新たな気づきや発見のある授業場面を通して、自ら学びに向かう生徒を育てる。 3 当該学年の教科チームとして生徒の成績推移や実態を把握し、それを踏まえた日常の補習や長期休業日中の講習を実施する。 4 教務部の適切な進行管理のもとに、生徒による授業評価結果を教科として分析し、学校として生徒へ文書でフィードバックする。生徒と教員とでよりよい授業づくりを目指す。 5 教科主任会での検討を踏まえ、土曜講習を組織的・計画的に実施し、基礎・基本の徹底及び発展・応用の充実を図る。 6 5～6教科7科目型の大学入試センター試験及び4教科6科目型の国公立二次試験に対応できる教育課程を継続実施する。 7 「課題・補習・面談」を通して基本的な学力の維持・向上を図る。 8 理数探究の具体的な内容・方法等について検討し、指導体制等を明確にする。 9 大学入学希望者学力評価テストを見据えた全国公立進学校との共同研究を継続実施する。	【目標】生徒と教員とで質の高い授業づくり 【方策】 1 授業研究と授業改善(個々の取組及び教科としての取組)の継続実施 2 教務部が主体となり、生徒による授業評価結果を学校全体としてフィードバック(第1回は前期終業式までに全校配布) 3 授業に関する校内研修会の実施(授業の見せ合いと話し合いの実施) 4 教科マネジメントの確立へ向け、授業内容・授業進度・考査問題の共通化を完成させる。(倫理) 5 今年度をもって、すべての教科・科目において、教科書レベルの授業内容を3年生11月までに終了させる。 6 学校設定科目「理数探究」(2単位)の授業内容・授業方法について、研究・開発する。 【数値目標】 学習指導に対する生徒肯定割合82%以上(前年度81%) 授業の見せ合いの参加率100%(前年度100%)
生活指導・健康づくり	(1) 生徒に寄り添う指導、生徒と向き合う指導を通して、自律的な生活態度の育成を図る。 あいさつ、身だしなみ、時間・私物管理、集団生活におけるマナーなど、「身に付けさせる規律・規範に関する全体計画」に基づき、教職員全員による一致した指導を行う。 (2) 生徒の健康づくり、体力向上、安全管理、環境美化を徹底する。 ア 学校保健計画に基づき、保健管理・保健教育を適宜適切に実施する。 イ 教育系職員と行政系職員とが連携して、安全管理・環境美化に努める。 ウ 生徒会や委員会など、生徒自らの取組を一層充実できるように支援する。 エ 体育実技の授業、運動部活動、体育的行事の実施を通して、生徒の基礎体力の向上を図る。 オ 学校いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、いじめのない学校づくりに努める。	【目標】「生徒に寄り添い、生徒と向き合う指導」から自律した生徒を育成する。 【方策】 1 進学校としてけじめ・メリハリのある授業規律・生活規律を確立するため、全教職員で生活指導にあたる。 2 全校集会・学年集会やホームルームを通して、望ましい学校生活について生徒に考えさせる指導をするとともに、家庭及びPTAとの連携を図る。 3 スクールカウンセラーを活用し、生徒の心のケアなど教育相談機能の充実を図る。 4 生活指導部、保健部、学年と経営企画室とが連携したタイムリーな環境整備を行う。(来校者の視点での環境整備)	【目標】全教職員が一致して生徒と向き合う指導 【方策】 1 学年集会や全校集会を活用し、生徒の意識や自覚を高めるための全教職員による一致した指導の実践(リーダーとしてふさわしい身だしなみ、時間・私物・貴重品管理に重点) 2 必要に応じてケース会議を開催し、心のケア等について迅速に情報共有するとともに、的確に対応する。 3 学校見学会・学校説明会・入学相談会など、来校者の視点に立つて、前日までの校内点検を徹底し整備を行う。
進路指導	(1) 最後まであきらめさせない進路指導を貫く。 現役で希望する大学への進学を実現させる。 (2) これまでの進路指導マネジメントシステムをより一層充実・発展させる。 ア 進路指導検討会(入学者選抜の結果、定期考査、実力テスト、外部模試等の結果を分析した校内会議)、学年ごとの拡大進路部会、系統的な進路調査、二者・三者面談等を実施し、個々の生徒を励ます指導を行い、3年間を通して生徒の進路意識を高くもたせる。 イ 生徒の入学時から卒業までの成績推移等の個別データを全教員で共有し、担任、教科担任、部活動顧問などそれぞれの関わりの中で励ましの指導を行う。	【目標】「現役での生徒の進路希望の実現」を果たす。 【方策】 1 学年集会、個人面談等を活用し、最後まであきらめさせない指導を継続する。 2 データベース等により生徒情報を共有し、担任・教科担任・部活動顧問等があらゆる場面で生徒を励ます指導を行う。 3 進路指導部と学年とが連携し、生徒の第一志望実現へ向けた進路指導対策を立て、現役合格を達成する。 4 年2回の進路指導検討会後に、進路指導部・5教科主任会を開催し、具体的な学習指導対策を検討・実施する。 5 実力テストの実施にあたって、作問レベルの事前確認、予想平均点の設定を行い、実施後の状況について全教職員で共有する。 6 第3学年生徒の成績データに基づいたケース会議を年2回開催し、出願指導等で活用する。	【目標】生徒の希望進路の実現 【方策】 1 根拠となるデータに基づいた生徒への励ましの指導を実施 2 生徒の高い志を堅持させ、第一志望を貫けるように支援する 【数値目標】()内は前年度の人数と達成率 1 難関4国立大学及び国公立医学部医学科の現役合格者 70人以上(56人) 2 難関3私立大学の現役合格者 230人以上(203人) 3 国立大学の現役合格者 100人以上(100人、100%) 4 大学入試センター試験5教科の総合得点率80%以上の人数 160人以上(152名) 5 大学現役進学率 60%程度を維持(前年度52%)
特別活動	(1) 文武両道の理念のもと、特別活動の一層の充実を図る。 ア 部活動への加入を奨励し、高い部活動加入率を維持する。 イ 学校行事の一層の充実を図る。(体育大会、合唱祭、星陵祭の実施を通して、帰属意識の高揚を図る) ウ 生徒会活動・委員会活動の一層の充実を図る。(生徒の活躍の場を拡大する) (2) 読書活動を推進する。 ア 生徒個人の資質を高め、また授業や学校行事を支える図書を薦め、生徒一人当たりの貸出冊数を維持・増加させる。 イ 図書館利用について環境整備を行う。 (3) 海外派遣「米国西海岸・ハワイ島研修」などのSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業を円滑に実施し、「技術革新に貢献できる知的プロフェッショナル人材の育成」を目指す。 (4) 海外派遣「ボストン・ニューヨーク研修」などの東京都教育委員会からのG10(東京グローバル10)事業を円滑に実施し、「人類に貢献できるグローバル・リーダーの育成」を目指す。	【目標】「文武両道」を奨励し、生徒の帰属意識を高める。 【方策】 1 新入生への部活動参加を奨励する。 2 体育大会、合唱祭、星陵祭を通して、全校生徒の達成感や達成感を高める。 3 生徒会活動・委員会活動を支援し、生徒自身の自主的・自律的な活動を充実させる。 4 SSH事業及びG10事業を安全かつ円滑に実施し、生徒の高い満足度を得る。	【目標】文武両道を追求する生徒の育成 【方策】 1 部活動の加入奨励 2 各行事における生徒会や実行委員会生徒の育成 3 全校集会等における生徒役員及び委員会からの連絡場面の設定 4 行事準備時間と部活動時間との割り振りを適切に行い、効果的・効率的な運営を行う 【数値目標】 部活動加入率95%以上(前年度94%) 学校行事に対する生徒肯定割合87%以上(前年度86%)
募集・広報活動	(1) 募集・広報活動の工夫・改善による「推薦に基づく選抜及び学力検査に基づく選抜」の応募倍率の維持・向上を図る。 (2) そのために、学校説明会・学校見学会の工夫や分析調査、学校ホームページの一層の充実、在校生による中学校訪問、塾対象説明会、入学相談会を実施する。	【目標】「入学者選抜における応募倍率の維持・向上」 【方策】 1 学校見学会・説明会、授業公開等を通して、本校を理解した生徒・保護者を選んでいただく。 2 生徒の活躍(学習、学校行事、部活動など)をタイムリーに学校ホームページへ掲載する。 3 各分掌が所管するホームページの内容をより自主的に更新・情報発信していく。 4 小学生とその保護者を対象とした学校説明会をより一層充実させる。	【目標】本校を理解した生徒の獲得 【方策】 教職員と生徒が一体となった丁寧で効果的なPR活動の継続
学校経営・組織体制	(1) 企画調整会議の機能を強化する。(学校経営方針の理解浸透と意見聴取の双方向性) ア 企画調整会議と分掌部会との双方向性を高めることによって、全教職員の情報共有や経営参画を進める。 イ 学校経営上の課題について横断的に検討し、必要に応じて分掌等に働きかけ、教育活動の改善や新規事業の提案等を行う。 (2) 分掌部会の充実を図る。 週1回の分掌部会やTAIMS端末を活用して、情報を迅速・確実に共有する。 (3) 教科主任会及び教科会の充実及び教科間の連携を図る。 ア 教科ごとの学力分析・課題の把握・優れた実践の共有を進め、学習指導へと反映させる。 イ 教科として組織的な補習・講習の企画・立案・実施を進める。 ウ 教科間の連携を一層強化し、バランスのとれた指導体制を整える。 (4) 校内研修の充実 質の高い授業づくりを目指した校内研修や進学校研究・シラバス研究等の校内研修を実施する。 (5) 高い倫理意識をもった教職員集団と法規法令の遵守(服務事故ゼロ)を達成し、生徒・保護者の信頼を確立。特に体罰や不適切な指導を絶対に生じさせない。 「経営企画室と一体」となった体制づくりを進める。 (6) 来校者等への丁寧な接遇を行う。(相手が安心する窓口・電話対応) (7) 計画的・効率的に予算執行する。(支援センターでの執行割合を適切に保ち、経営企画室の経営参画機能を高める) (8) 施設設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕を徹底する。(リスク・マネジメントの強化) (9) 行政系職員から見た教育活動等への提言を行う。(行政系職員が分掌部会に参加し、共に高め合う教職員集団へ)	【目標】「迅速な情報共有と知恵の結集で改善を」 【方策】 1 企画調整会議と分掌部会との双方向性を維持する。 2 TAIMS端末やNAS(校内ネットワーク)を有効活用して、迅速・確実な情報共有を行う。 3 学校経営計画に基づき、各分掌が組織目標の設定、中間総括、年度末総括を実施する。	【目標】PDCAマネジメントサイクルの実働化 【方策】 1 分掌部会における主任からの報告、資料回覧、TAIMS送信等により、企画調整会議の内容を確実に伝達する。 2 意見聴取事項については、分掌主任が部会での検討結果を企画調整会議で報告する。 3 教職員の自己申告における目標設定が、学校経営計画及び分掌組織目標を踏まえたものとなるようにする。 4 すべての校務分掌(7部署)が、学校経営計画に基づく年間組織目標を設定し、中間総括及び年度末総括を実施するとともに、公開する。